

- あわただしく日が暮れるころとなりました。なんとなく気ぜわしい日々ですがお変わりなくお過ごしのことと存じます。松岡医師をお迎えしての一泊旅行、名古屋大学医学部神経内科の平山医師、渡邊医師による豊橋市での医療講演会等ご参加くださいましてありがとうございました。充実した秋でした。
- 豊橋の医療講演会に出席の方から、当日の記事（「友の会」が講演会）が載っていると地元の東日新聞を送ってくださいました。ありがとうございました。
- 平山医師の「薬の話」を楽しみに待っておられる方が多いです。お忙しいでしょうが今後もよろしく願います。
- 肥後さんが「ちょっと便利な小物たち」と題して重宝な小物を取り上げています。一度目を通してください。

目 次

京都の安田先生	丹 羽 浩 介	2 p
薬の話（非麦角系アゴニスト）	平 山 正 昭	4 p
秋の一泊旅行	益 田 緑	6 p
	鈴 木 たか子	6 p
	山 尾 佐知子	7 p
豊橋で医療講演会が	山 尾 佐知子	8 p
ちょっと便利な小物たち	肥 後 ひとみ	9 p
作品集 入会に際し	大 道 忠 弘	11 p
近 況	本 田 定 男	12 p
私の武器はゴルフです	河 嶋 徹	13 p
出 発 点	神 原 時 彦	15 p
発症からDBSまでの道程	大 道 忠 弘	17 p
1200年前の碁盤を見に	越 澤 博	18 p
新役員のご紹介（追加）		19 p

京都の安田先生

支部長 丹羽浩介

この秋にすばらしい体験をしました。友の会を通して知り合った滋賀県の女性からの電話がきっかけです。本の出版について尋ねてきたのです。話を聞くと京都在住のその人の主治医の方の問い合わせです。直接話したほうが良いと思い電話を使いました。神経内科・安田医院の安田医師です。

はじめての電話でこの医師の人柄の良さ、医師という職務に対する自覚と情熱が伝わります。全国ネットの大病院勤務を通して生み出した独自の理論による神経疾患の完治に向けての実践指導書です。原稿を見せてもらいました。非常にユニークな考え方です。本が出版されたら紹介します。この医師と接していると人生が何であるか、の一つの答えに出会います。臨床医の一番大切なことはなにでしょうか。もちろん専門知識です。しかし、これは当然のことですら省きます。

私の考えでは、患者に対する人としての思い、情熱などでしょう。安田医師のそれは生半可のものではありません。患者が良くなる、その事に無上の喜びを感じ、寝食を忘れて没頭する、その種のいき方をされている医師の方は沢山おられます。これを患者の側から表現すれば、自分と言うものに対して如何に心を寄せていただいているか、つまり医師にたいする信頼の度合いになります。

こんなことがあって失礼とは知りつつも私は直接ある質問をしました。「医は仁術」の「仁」とは、なんでしょうか。すぐに答えが返ってきました。

そんな大きな問題〔人間と言うこと、或いは、生きるということに関して〕に答えられるものではない。若しそれをいう人がいればそのひとは、そのことを体験していないか、職務を通して真剣にかんがえていないひとだ。と一刀両断されました。それで、つい余分なことを考えました。

三流の人はすぐ一流になれると思ひ、二流の人は一流にはなかなかないと思ひ、一流の人は一流にはなれないと思ふ。医師に向かって「仁」とは何かを問ひかけ、その得た答えの清清しさよ、と言いたいのです。一流の人は一流になれ

ないと思ひ、仁を実践する医師は仁を語るは、神のみという、まさにここに、この道の実践道を体現している人となりを感じます。お前はこのようなことを軽々しく問うなど、安田医師はきっと私、丹羽に言われたのでしょうか。私の知っている医師の多くの方は、安田医師同様、仕事熱心で献身的な態度で医療にたずさわっていられる方ばかりです。しかし、電話相談をされるような人の主治医は、決して立派とは言えません。人間の本性として備えるべき慈愛の心をも持ち合わせていない医師が多いようです。だから、患者は不安になり、心配して、問い合わせているのです。この時に感じるやるせなさを日頃より心のそこにあつたのでしよう。

また、愛は奪われるもの、と安田医師はいいます。人に愛を持って接すれば相手は自分の必要なものまでを持ち去ると。精神性の患者と話をするとこちらの精気を相手に吸い取られ、くたくたになるともいわれます。この点については私も同じです。パーキンソン病で沢山の電話相談をうけます。いろんな方が居られます。電話されてくる人の多くが、会員以外の人です。一般的な傾向として、ご主人が発病の時は、奥さんが電話をしてこられます。奥さんが発病の時電話してこられるのは、やはり奥さんです。電話してよかったと最後に言っていただきますが、相手が私と話をしてよいとおもった場合は、その分こちらがくたくたになります。そして、相手の納得のいくまで話していると、すぐに1時間くらいはたつてしまいます。私が話をしている1時間をどの様に考えるべきでしょうか。

人間が生きている限り人との交流は避けることが出来ません。いや、人との交流があるからこそ人間でしょう。それならば、お互いに相手を尊重して感謝することが大切です。そしていま、支部役員の方が一人、安田先生のお世話になっています。その人のいうには、安田先生には頭が下がる。ただ、感謝するのみです、と。

因みに「仁」を字引で見えます。おもいやり。いつくしみ。と出ています。ところが仁を主張した元祖・孔子の『論語』によれば、結局仁は仁なのです。

薬の話（非麦角系アゴニスト）

名古屋大学医学部神経内科 平山 正昭

前回は、麦角系のアゴニストについて書きましたが、今回は非麦角系のアゴニストの話です。L-ドーパを長期に服用すると、wearing-off や dyskinesia が出てしまうということで、麦角系のアゴニストが開発されたのですが、しかしそれもまれに肺線維症、後腹膜線維症や弁膜症のような副作用が出ることをお話しました。また麦角系のアゴニストは、吐き気の副作用が多いこともお話しました。そこで、同じような作用のある薬が無いかということで、開発されたのが非麦角系のアゴニストです。日本で使用できるのはタリペキソール（ドミン）とプラミペキソール（ビ・シフロール）です。この薬は、開発の段階で何かの植物から採ったというものではありません。最初は、どうも鬱病の治療薬を作るために、開発したようなのですがどうやら治験の段階でやめになったのだそうです。先に、発売されたのはドミンと言う薬です。使用した経験から言うと、確かに吐き気の副作用はないのですが、一錠でも眠いと言うことでとても一日三回は飲めません。結局私は、パーキンソン病の患者さんの眠り薬だと思って使用していました。その後、ビ・シフロールが二年前に発売されました。案の定、ドミン程の眠気はないのですが、やはり患者さんが眠気を訴える頻度は多い気がします。さらに、問題になったのは突発性睡眠の問題です。この薬は日本で認められたのは最近なのですが、海外ではもう10年ぐらいの使用成績があります。1999年 Frucht という人が neurology という雑誌に、非麦角系の薬を服用中の9人のパーキ

ンソン病の患者さんが運転中の交通事故をおこし、そのうちの5人は前兆なく急に眠ってしまったと報告し、問題となりました。もともと、パーキンソン病の薬はL-ドーパも麦角系のアゴニストにも眠気はあったのですがこのことによって服用者は運転をしてはいけないとなってしまったので問題となりました。特に、カナダでは、クルマ無しでは生きてはいけませんので全国調査が為されました。結果としてやはり、服用をしていると昼間の眠気は多いのだけれども、急に寝てしまうような眠気は少ないとのことでした。また、どの薬剤が眠気を催すかの研究では、L-Dopa 単剤治療がもっとも突発的睡眠のリスクが低く（2.9%）、続いてドパミンアゴニスト単剤治療（5.3%）、L-Dopa とドパミンアゴニストの併用（7.3%）の順番でした。セレギリン（エフピー）、アマンタジン（シンメトレル）、エンタカポン（COMT 阻害薬日本で発売未）は突発的睡眠の発現に影響を与えてはいないようでした。制御不能の眠気の発現とプラミペキソール、ロピニロール、ペルゴリドの服用量には相関が認められました。したがって、現在はパーキンソン病の方に眠気があるかどうかにも注意しなくてはなりません。昼間の眠気の多い方は増えた印象があるのですが、本人の意識なく急に寝てしまう sleepattack という現象はそれほど多くないので過度に薬が多くないかどうかを注意するようにしています。非麦角系のアゴニストは、弁膜症の副作用はないのですが、この他にも私の印象では、幻覚が出やすい気がしますので、高齢者にはなかなか使いづらい薬です。しかし、時にこの薬が著効する方も見えるので一度は試す価値があると思っています。

秋の一泊旅行 「松岡幸彦医師と語る会」 に出席して

益 田 緑

大きな温泉があるらしいと聞き、人が居なかったらちょっとだけ泳いでみようかな、なんて思いながら、参加しました。

行事も終わってももう少しと言うところで、OFになりそうなので、早く部屋に行こうとしたのに、エレベーターに4・5メートルのところまで歩けなくなったのです。若い人たちのグループには、じろじろひそひそと見られるし、前にも後ろにも足が出ず、たった今松岡医師にお聞きしたのにと、半歩ひいてみようにも、いちっ、にっと言ってみようにも、なんともかんとありません。でも手を貸して、号令をかけて下さる方、エレベーターを待たせて何度も迎えに来てくださった方、結局Hさんがご自分用に用意してみた車椅子で、部屋まで送って頂きました。落ち込んでいたら、「病気になった人しか解らないもんね、私なんて何回でもあるのよ、でも何処へでも1人で行くわよ」と、さりげなく助けて下さるスマートさ、皆さん有難うございました。

久しぶりに、大勢の方とお話をしたり、懐かしい歌に大声を出したりと、楽しい事もたくさんありました。ハーモニカで、何曲も伴奏して下さった方は、奥様はお家でなにをしてみえますか、との質問に、「はい歌を歌っています」と素敵なお答え、きっと声が出る様にハーモニカの伴奏で、リハビリを兼ねて歌って見えるんじゃないでしょうか。

又、お話される声は聞き取りにくいのに、歌ははっきりと歌える方も、楽しそうに歌って見えました。

「私ね、洋裁がまだ出来るのよ」とおっしゃる方や、「万博へ17回も行ったのよ」などと、皆さん意欲がある人達でした。松岡先生のおっしゃる様に、前向きな方が多いように思います。

先生のお話は、薬は、勝手に増やしたり、減らしたりしない事、運動は気持ちいいと感じる程度が良い事等、前向きになることが大切と、言われたと思います。私は、まだまだ駄目ですが、心に残る1日となりました。

鈴木 たか子

10月20・21日は友の会恒例の一泊旅行の日です。当日は朝から良く晴れ渡り、寒くもなく、絶好の旅になりました。皆さんおだやかに、明るく本当に楽しい表情でした。(私も含めて)

2時集合、会議室で自己紹介から始まりました。私の隣は蟹江サカエさんで、ご主人が奥さんの病気をかばって、仲むつまじい姿を見て羨ましいねと言っていました。

3時から、松岡先生のお話があり、薬の話が主でした。患者一人ひとり違って、どの薬が合うか随分違うものであると強調されていました。また、遺伝性のお話もありましたが日本ではまずないから心配なくていいと言われました。高齢社会になって、このまま寿命がのびて仮に100歳まで生きたとすると、ほぼ100%パーキンソン病になるとのことです。

先生も、会長が常々言っておられる前向きに物事を考えて行動することがパーキンソン病には一番良いと言われました。パーキンソン病になってしまったことをいつまでも悩んでいても何も得ることはないのではないか。

夕食は大変美味しく、その後のビンゴゲームや歌を歌ったり、ハーモニカ演奏など楽しい雰囲気でした。

山尾さんご夫婦、肥後さんがとても良く気配りして下さり、心からご苦労さんと申し上げて閉会となりました。

来年も、今年以上に参加者を増やすよう頑張りたいと思います。

山尾 佐知子

10月20日(木)、21日(金)とあいち健康プラザの一泊旅行に参加しました。

秋晴れのお天気に恵まれて楽しいひと時を過ごさせて頂きました。ご参加下さいました皆様のお蔭と感謝致します。86才になられます蟹江サカエ様を小牧まで迎えに行き、主人が快く引き受けてくれた事に感謝すると共に蟹江さんが大変喜んで下さいましたので本当に良かったなあとうれしく思います。

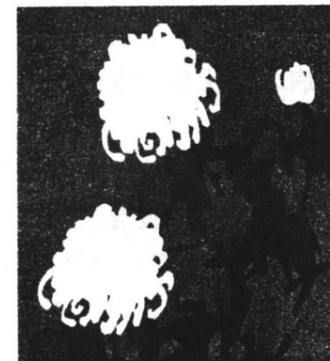
友の会の事、少しお手伝いさせて頂いて居りますが、何分にも不慣れで戸惑う事ばかり何とか楽しい雰囲気をと焦ります。

今回のリクレーションは本当に皆様に援けて頂き楽しく盛り上げて頂きました事大変嬉しく思います。栗田様のハーモニカ素晴らしかったですね。有難うございました。懐かしい歌をみんなで歌えてちょっと昔を思い出し心なごむひと時でしたね。

ビンゴゲーム面白かったですね。でも、私は全然だめでした。皆様は何かいいおみやげありましたでしょうか。ご参加下さいました皆様に厚くお礼申し上げます。

蟹江様の年齢まで20年あります。20年先あんな元気でいられるのかしら、全然自信ありません。でもね、蟹江さんとお話していますとやはり前向きな考えで行動なさっています。生きて行くのに大切な事なんだなあと思います。老いてますます自分に厳しくとは自分を大切にすることですからね。蟹江さんはいつもちぎり絵をしたり、しおりを作ったりして物を作る喜びを上手に一日のスケジュールの中に入れて楽しく過ごして居られるようです。私も努力したいと思います。

明るく楽しい毎日をモットーに元気で生きて行きたいですね。パーキンソン病の完治を願って頑張りましょう。ありがとうございました。



豊橋で医療講演会が開かれました

山尾 佐知子

10月29日(土) あいにくの雨になり客足を心配しましたが、50人もの参加を頂きました。名古屋大学病院から平山正昭医師と渡邊宏久医師のお二人をお迎えしての講演会でした。

丹羽会長の「元気になろう」のお話から始まり、平山先生は「パーキンソン病の病態と治療」、渡邊先生は「パーキンソン病患者の生活指導」についてお話して下さいました。

参加されました方は、患者さん本人よりも看護される方やヘルパーさん達が沢山来ておられました。

質疑応答では個々に熱心に質問され、先生方も丁寧にわかりやすく答えて下さり、皆さん納得して日ごろの不安な気持ちを癒すことが出来、和やかな暖かい時を過ごすことが出来たとおもいます。豊橋では初めての講演会でしたが実りある充実した講演会でした。

次回を楽しみに友の会の会員の輪を広げましょう。ご参加下さいました皆様方有難うございました。パーキンソン病の皆様、友の会に入会して、ATMの明るく、楽しく、毎日を、完治目指して頑張りましょう。入会をお待ちしております。

お問い合わせ先

全国パーキンソン病友の会・愛知県支部事務局
〒458-0478 名古屋市緑区浦里1-68-508
TEL 052-891-3482 越澤 博

10月30日 東日新聞(豊橋市)の記事

パーキンソン病と向かい合う

「友の会」が講演会

全国パーキンソン病友の会愛知県支部(東海市、丹羽浩介支部長)は29日、豊橋市東松山町の豊橋市中部地区市民館で、パーキンソン病医療講演会を開いた。東海日日新聞社など後援。パーキンソン病患者や家族、介護士、ヘルパーなど約50人が集まった。

はじめに丹羽支部長が「元気になろう」というテーマであいさつを兼ねて講演し、パーキンソン病患者としてどう生きるか、積極的に行動することが病気の進行を抑えることにつながるなど、自身の経験を話した。

続いてパーキンソン病の専門医の講演が行われた。

名古屋大学医学部附属病院・検査部神経内科医師・平山正昭氏は「パーキンソン病の病態と治療」をテーマに話し、パーキンソン病の症状や治療法、薬の効果、副作用などについて説明した。

同院のほか、豊橋市二川町の木戸病院でも診療する神経内科医師・渡邊宏久氏が「パーキンソン病患者さんの生活指導」をテーマに話した。渡邊医師はパーキンソン病患者が楽しく暮らせるように「一日20分から30分体を動かす」「歩行障害は、背筋を伸ばし、かかとから着地するように歩く」「嚥下(えんか)障害は、カラオケやお経読みなど大きな声をだすといい」など、さまざまな症状について具体的な生活方法をアドバイスした。

ちよつと便利な小物たち

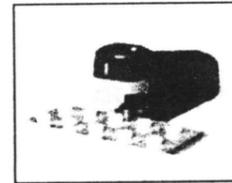
肥後 ひとみ

みなさんは薬を半分に割るのに苦労した事ありませんか？
そんな時どうしてありますか？はさみ？ナイフ？・・・それでは取り扱いが大変です。
そこで、簡単に薬を割る良い道具を見つけました。使用していて大変重宝しています。
みなさん、ご存知かと思いますが一例を取り上げてみました。

錠剤半切器

【7千はんぶんこ】

¥3990



PTP包装状態のままでも半分にカットできます。バラ状でももちろんキレイに半分に。携帯に便利なロック機構とストラップ穴がついています。カセット式の替え刃が1枚付いています(替え刃のみの販売もできます)いつでも新鮮な切れ味で替え刃の交換も簡単です。
◆材質:本体/ABS樹脂、刃/0.5mm 特殊硬質刃
◆適用錠剤:約Φ4~12mm ◆付属品:替刃/1枚

錠剤カッター

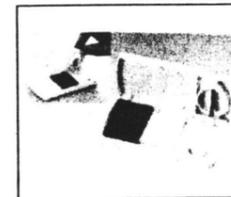
¥525



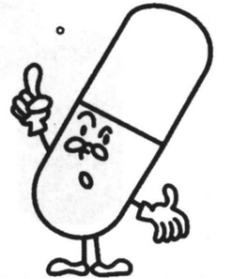
錠剤をはさんで押さえるだけで半分にカットできます。カップ状なので、カットした錠剤が飛び散ることがありません
◆材質:本体/ABS樹脂 刃/ステンレス(420-J2)
◆サイズ:全長80mm×高さ19mm

ピルボックス (錠剤カッター付)

¥840

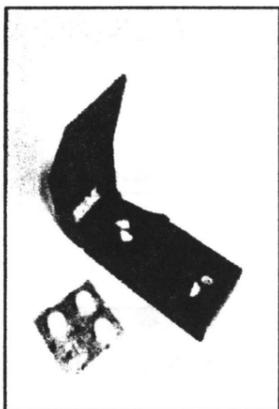


お薬の携帯用ケース2個と錠剤カッターがセットになりました。飲みにくい錠剤を簡単に半分に割れます。
◆材質:ポリプロピレン
◆サイズ:外寸法一約37×27×11mm 内寸法一34×24×9mm



<http://www.oomati-genki.com/benri.html>

薬カッター



錠剤を正確に半分に切ることができます。コンパクトなので携帯にも便利。1回半分の量を飲みたいという方に、錠剤が大きく飲みにくいという方におすすめ。

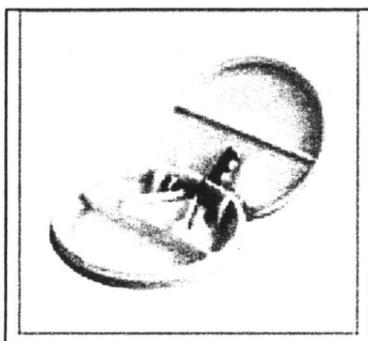
医師の許可を得てお使い下さい。

サイズ: (ふた下部) 8×3.3×1.5

840 円

http://www.afterforty.jp/sho_ichiran.html?cg2_id=15

⑩同じ物ではありませんが薬カッターは東急ハンズ名古屋店（JR名古屋高島屋内）で取り扱っています。



大きくて飲みづらい錠剤や、1錠では成分が多すぎるお薬やタブレットを、適量にカットします。

手で割ったり、カッターナイフで割るよりも安全で確実にカッティングすることができます。

サイズ: タテ 16×ヨコ 8.5×厚 2cm

1,029 円 (税込)



デラックスカットンクラッシュは、ピルカッター、ピルクラッシャー、ピルケース、ドリンクングカップがセットになった携帯サイズの多機能ピルケースです。

(1段目カッター・2段目クラッシャー (すり潰す) 3段目カップ)

サイズ: タテ 16×ヨコ 7×厚 4cm

1,575 円 (税込)

<http://www.hands-net.jp/shop/goods/goods.aspx?goods=01000872510&category=40030105>

パソコンから抜粋しました。パソコンお持ちの方は一度アクセスしてみてください。

尚、購入及び質問などありましたら下記までお問い合わせ下さい。

090-5863-6474

肥後 まで

作品集

入会に際し

大道 忠弘

病歴は十三年のベテラン、友の会ではピカピカ(?)の一年生。五十才で発症、今年三月にDBSの手術をうける。手術の結果については現在のところこれと云ったトラブルもなく成功の部類ではないかと自負しております。ちなみに九月末現在での改善効果は術前術後の比較では次のリストの通りです。

項目	術前	術後
薬	日に 13.5錠	日に 2錠
文字	小さく 遅い	発症以前に近いところまで回復
食事	遅い 30~40分	同上 20~25分
洗顔・髭剃り・歯磨	同上	同上
歩行	難あり 足を引きづる・前傾斜	現在も多少残っている (今後の課題)

又、先日京都に於いて開催されましたHOPEの会に越澤様のご好意により出席を致しました。その会場に於いて丹羽会長とHOPEの会の橋爪会長にお会い出来、定例会の内容と共に充実した一日でした。ありがとうございました。感謝・感謝。

又、この友の会の組織原則が“任意”と“善意”と云う事で私が今日まで経験をして来ましたビジネス社会のコストパフォーマンス中心の世界とは異なり大変新鮮に感じている次第です。友の会の皆様とは同士として長いお付き合いをさせて頂く事になると思いますがご指導の程宜しくお願いを致します。

最後に、この大切な紙面をお借り致しまして今日までお世話になりましたDr. とスタッフの皆様又引き続きお世話になります関係行政の皆様並びにDr. とスタッフの皆様に心よりお礼とお願いを申し上げます。

追伸 文中失礼な表現がございましたらお許し下さい。



近 況

本 田 定 男

私は3月22日、丹羽会長紹介の本町クリニックへ向かう途中、名鉄名古屋駅の地下構内の学生やサラリーマンでごったがえす、プラットホームで、足元のおぼつかない、まるきり幼児のような動作で徘徊していました。ひと電車を見送ったその瞬間、ホームの白線の内側を歩行していた積もりだったが、大田川駅から立ったまま名古屋駅まで来たうえ杖も持ち合わせていないで、疲れと足の不具合（パーキンソン病）からか、フラフラとしてホームから軌道に転落し、右足が偶然レールの上に落下した激しい痛みに立ち上がることも儘ならず、腰を上げた格好で蹲っていました。二分間隔で進入して来る電車に、私は一瞬、つい最近東京で韓国の留学生と一会社員が軌道に落下した人を救助すべく進入して来た電車に跳ねられ死亡したことが鮮明に浮かび、私もこれで一巻の終わりかと、ただ馬なりに蹲るのが最善の状態、電車進入の方向を眺めたが救助を待つのみでした。

ざわめきと同時に雑踏の中から「信号機を赤に切り替えよ」と一段と大きな怒号のおぼしき声の方々から私の耳に飛び込んできました。「おじさん、立てないの」と学生や駅員から声がかかるも、小声で返事を繰り返すもパーキンソン病特有の発声が巧くできず首で合図を送ったのでした。4・5人の駅員が担架を私の前に広げ、四人で私の四肢を一人ひとりが上手に持ち上げ、痛みをたずねながら救急車で名鉄病院へ運ばれました。救急車のお世話になったことは度々あったが、この度のように自身の不注意で、大勢の乗客が見守る中での失策が如何に大きな屈辱的出来事であったか。

私自身ではパーキンソン病の独特の症状が為せる技だから致し方ないと半分諦めて居るものの、発症する前の体調をふと想起しては年甲斐もなく熱いものが頬を伝う始末になぜ私がこのような一風変わった病を、一生背負って死を迎えなければならぬかと嘆き悲しむ。しかし、私は幸せな類の病人であると先生方から優しく慰めの言葉を頂戴して奮起し、パーキンソン病との共存に仲良く対処し、やがて完璧に治癒できるものと信じ我々患者も一致団結して難病を克服し、友の会も力強く絆を広めて躍進できますようによろしくお導きくださいますようお願いいたします。

私も役員を仰せつけられましたが、今回踵の骨折で66日間の入院で只でさえ足元の不自由な私は歩行も起立も儘ならず、転倒を重ね家内同伴でないと外出も儘ならずと言ったところでは。



「私の武器はゴルフです。」

河嶋 徹

友の会のみなさん、こんにちは！

私のパーキンソン病との付き合いは、6年前からです。発症から2年間は、病名も判らず老化現象の一種ぐらいに考えていました。今その当時の症状を思い出してみますと、腰を中心としての体の硬張り、左手、左足の不器用さ、そして下半身の脱力感がありました。体の状態を不思議に思いながら、日常生活を送っていました。

平成14年の3月に職を辞し、早や4年目です。退職する寸前に、体の異常さについての病名が判明しました。病名がある事は当たり前なのですが、病名が判らず、体の異常さを意識すると、正体不明の不気味さが、いつも付きまとっていました。変な話ですが、病名が判った時は病気の大変さより、正体の知れた安堵感の方が勝っていました。

病名が判明して安心したのは一瞬で、パーキンソン病の重大さを思い知ると、暗澹たる前途が待ち構えていたのでした。

「不治の病」・「一生服薬を続ける」・「進行性の病」・・・等と、気が重くなって来る病気です。体が思うように動いてくれない焦燥感や苛立ち、体の硬張り、対照的に、両足の脱力感から、不快な心持にさせられます。このような症状に見舞われると、体を動かすのが嫌になってきます。椅子に座ってじっとしていたい。体を横にしたい。しかし、体を動かさざるを得ないのが日常の生活です。症状に負けて、泣き言を言っている訳にはいかないのです。ともかく、生活をしていかねばならない。体を動かして病魔を追っ払わなければならない。病気に打ち勝つ意欲を持っていかねば・・・

このような思いから、スポーツをすることにしました。

幸いにも、スポーツが好きで楽しむ事ができます。スポーツの効力は、皆さんもご存知かと思いますが、体の機能を維持し、高めてくれます。

パーキンソン病で体を動かすのを嫌がっていると、筋力の衰えが進み、病状と相まって、病気の進行を進め兼ねません。

スポーツをやることで、病魔を完全に追い払う事はできませんけれど、病魔を遠ざける事は出来ると思います。

このような願いや思いから、私はゴルフをやっています。元より、ゴルフは楽しいスポーツです。体力的にもハードではありません。

いつも行っているゴルフ場のプレーヤにしても年配者が圧倒的です。そして、現在では乗用カートに乗ってプレーするゴルフ場が殆どです。あまり体力を使わずプレーできるようになりました。因みに、一昔前までは、一日8キロ前後歩いてプレーしていたものです。

ゴルフは18ホールを何打で回れるかを競うスポーツです。打数が少ない方が成績が良い。ゴルフの説明をくどくどとするのが目的ではないので省略しますが、ゴルフというスポーツの長所は、まず軽いスポーツです。そして奥が深く、上達には相当の努力がいるスポーツです。第2に、ゴルフ場に立って見れば判る事ですが、緑の環境が素晴らしい。

野鳥のさえずり、四季折々の花々、周囲の眺望、これらの自然の中を一日中プレーすると、心身をリフレッシュしてくれます。

私はゴルフを楽しんでいます。進行性の病であるパーキンソン病の恐怖に脅かされそうになりますけれど、ゴルフを続けてやることで、病魔を遠ざけたいと強く願っています。ゴルフができる身体と気持を大切にしたい、病魔に負けてゴルフが出来なくなる日を一日でも遅くしたい。

このような意味合いからゴルフを続けています。そして欲張りながらも、スコアの自己ベストも目指したいです。病魔に打ち勝ち、遠ざける闘いとして、クラブを振り続けます。ゴルフは難敵パーキンソン病に対する私の武器です。

ゴルフを続けてやる事で、“俺はパーキンソン病なんかには負けてたまるか。”と大声で叫びたい気持です。

最後になりましたが、会員の皆さん、皆さんも楽しくて、強力な武器をお持ちになられてはいかがでしょうか。



「出発点」

神原 時彦

平成11年3月、我が人生での何回目かの句読点からのスタートを迎えることになった。その出発は今迄のスタートにはなかったもっとも重くつらいものでした。

過去を振り返ってみると

- 1939年(昭和14年) 誕生
- 57年(32年) 就職
- 62年(37年) 結婚
- 67年(42年) 独立開業
- ・
- ・
- ・
- 89年(平成元年) etc

昭和時代は苦しいながらも真面目に仕事をこなしていればわずかずつでも目標に向かって結果を出す事が出来ました。

しかし平成時代に入ってしばらくすると社会情勢が大きく変わり御多分にもれずわが底浅の零細企業ではその波に乗り切れず沈み込む一方でした。

そこに忌まわしいP. K 病告知
不治の病
寝たきり生活

私の人生もこれで終わったのかと思ったものでした。



P. K 病告知を受けた後の1年間を今振り返ってみると頭の中がからっぽで何も記憶に残らないような悶悶とした生活を送っていたようでした。

その後、少し気分が落ち着いてからP. K 病の実体を知ろうと心がけていた時期にP. K 病友の会を知り、丹羽支部長に連絡を取り説明を受け入会を決めました。

その後、総会等で友の会の主旨と思われる。聞きなれた言葉ですが「希望と勇気」を指標として今後の生活を過ごして行こうと思っています。

会員の皆様も一緒に頑張りましょう！！



発症から DBS までの道程

大道 忠 弘

この会報の作品集に、友の会への「入会に際し」と云うテーマで掲載をさせて頂いて居りますので重複するところは省かせて頂きます。

ここでは、発症から DBS の手術までの十四年間の道程について書かせて頂きます。定かでない記憶を辿り乍、苦手な文章を書き上げる事はパーキンソン病（以下 P 病と表現させて頂きます）との戦いと同様につらい道程かも知れない。初期の段階は何となく体がだるく又文章を書く速度が遅く、筆圧が弱く迫力がない。一体どうなったんだろうといらいらする毎日でした。いくら自分で悩んでいても解決出来るはずもなく、市内の病院の脳神経外科にて診察を受け、CT の撮影と歩行及び文字書き又手首をくるくると廻したり、色々な動作検査を受け Dr. に P 病の可能性大である旨伝えられた。

P 病については名前のみ知っていたが詳しい内容は承知していなかった為、家へ帰り常備してある「家庭の医学」なる本を自分の部屋へ持ち込んで P 病のページを、目を皿にして一心不乱に読み耽り、読んで行く中にこの病気は現在の医学では治らない旨の事が書いてあり愕然として、分厚い本を床にたたきつけ足で蹴上げている自分が居り、その後もなかなか冷静になれず、何故自分がこの様な病気になったのか寝ても覚めても頭から離れず憂鬱な日が何日か続き、このままでは駄目になってしまう、何とかマイナス思考の気持ちをプラス思考に転ずるべく方策を探り始めました。齢五十才の時十四年前の事です。

私は自分なりにサラリーマン人生を二十代、三十代、四十代、五十代と四段階に分け、五十代は今までの経験、知識、知恵等々自分なりに蓄積して来たノウハウを整理し、息子や後輩達へ残す為の仕上げ年代であると認識し、六十代以降はおまけの人生と考え居りましたが神がそれを許さず、もっと働けと云う事かと妥協せざるを得なかった。ここに至り大転換を余儀なくされた事は現在の時点で評価しても大きな人生の転機であったと思う。だがこの時点でいくら悔やんでも「たら、れば」に過ぎない。

この十四年間に薬は増えるし治療面でも画期的なものもなく、又仕事の面に於いても色々とマイナス面が多く悶々としていたところへ、主治医の神経内科の Dr. から DBS の説明を受け、即断で手術をされる脳神経外科の Dr. への紹介状をお願いの上、必要な手続きを済ませ、今年三月十四日に入院の上手術前の検査を行い三月二十三日に手術を行う。手術の結果も順調にて四月十五日に無事退院の上現在に至って居ります。

この十四年の年月に於いて文章に書けない様な色々な事がありましたが、その辺についてはいずれ同病でお悩みの同志の皆さんにはお話出来る機会もあると思います。神経系統の病気には笑顔で楽しく暮らす事が一番の薬だと思います。最後に私の好きな言葉「昨日よりは今日、今日よりは明日へ」をエールとして贈らせて頂くと同時に、これからは同志の皆さんと共に明日への希望を持って頑張りたいと思いますので宜しく。 合掌

書き終えての感想

何か畦道から田畑を見ている様な内容になってしまいましたが又機会を作り話合いました。そして DBS 手術の成功の要素として神経内科医と手術を担当される外科の Dr. 及び患者のコンビネーションが重要であり手術後もリハビリを加えた四位一体の体制がシステムとして大切だと考えます。

1200年前の碁盤を見に

越 澤 博

毎年、文化の日を挟んで正倉院展が開催されています。今年が目玉の一つである碁盤と碁石が見たくて奈良までドライブしました。まず湾岸道路の素晴らしさに驚きました。広々とした道路に見晴らしも良く、その上車が少なく快適でした。月ヶ瀬から柳生の里を抜け奈良へ、道端には菊が咲き乱れ、空には柿が日に輝いていました。この道は私の好きな道のひとつで、毎年のように走っています。

正倉院には碁局(碁盤)が三基伝わっているそうですが、その中の最も華やかに装飾された木画紫檀碁局が展示されていました。聖武天皇の遺愛の一品とのことです。盤面縦横に十九路三百六十一目が表されて現行の碁盤と全く同じです。ただ、その装飾の素晴らしさにびっくりしました。盤面は紫檀貼りで、聖目(星)を十七個(現在は九個)配していて、その聖目が美しいのです。五弁花をツゲ、象牙、緑に染めた鹿の角などで作り、縁を銀線でくくっています。思わず見とれていました。盤面周囲は象牙、ツゲ、コクタン、銀板で霰文木画帯を巡らせていて、その分現在の碁盤より一回り大きくなっています。裏は黒漆塗りです。

碁盤の四側面も紫檀貼りで、やはり霰文木画帯を巡らせ、各側面を四区に分け、その内側に象牙を切り抜き、線刻をし淡彩をほどこした異国風の狩獵文や禽獸文などを配しています。盤面の相対する二側面の左端に碁子(碁石)を入れる引き出しがあり、亀と鼈(すっぽん)をかたどっていて、この引き出しは一方を引くと他方も押し出されるというものです。床脚も紫檀貼り、象牙で作る文様を配し、それは、それは見事な一品でした。

次に目をひいたのは、紅牙撥鏤碁子と紺牙撥鏤碁子です。どちらも染象牙の碁石です。象牙で作った碁石を紅色および紺色に染め、これに線刻をして、白く文様を彫る撥鏤技法というものだそうです。いずれも花枝をくわえて飛ぶ鳥を表現しています。表も裏も同じ文様です。そのほかに黒、白の碁石もあり、白は石英、黒は蛇紋岩で出来ているそうです。

またこれらの碁石を入れた銀平脱合子も見事でした。

11月上旬の奈良公園は紅葉の見ごろで大変な人出でした。大仏殿を回って裏に出ると正倉院があります。校倉作りの有名な宝庫です。南北に北倉・中倉・南倉の三つからなり東面して建てられています。正面九間で約33メートル、側面三間で9.4メートル、高さ約14メートル、床下の高さ約2.7メートルという巨大な木造の建造物です。正面に立ってしばらく全容を眺めておりました。1200年という時の流れを感じていました。再び大仏殿の裏を東に行くと二月堂に行きます。車椅子を押すには不便ですが散歩には良い所です。

菊 日 和 二 月 堂 へ の 石 畳 博

新役員のご紹介

次の方々に役員(追加)として友の会運営にご尽力願います。

伊東俊雄(熱田区) 河嶋 徹(多治見市) 神原時彦(瑞穂区)
関 和子(東浦町) 大道忠弘(尾張旭市) 益田 緑(春日井市)

また、会報の編集委員を次の方々にお願いします。

肥後ひとみ(東海市) 山尾佐知子(緑区) 河嶋 徹(多治見市)
神原 時彦(瑞穂区) 大道 時彦(尾張旭市) 越澤 博(緑区)

なお、友の会の運営に参加くださる方は申し出てください。平成19年度の全国大会を名古屋で開催する予定です。人手が要りますのでよろしくお願い致します。

本町クリニック・服部神経内科

院長・服部 達也 副院長・服部 優子
〒460-0008 中区栄3-20-29
TEL052-249-0101
診療時間 午前9:30 ~ 12:30
午後3:00 ~ 6:30
休診日 木・日・祝日・土曜の午後

(有)メディカル在宅マッサージセンター

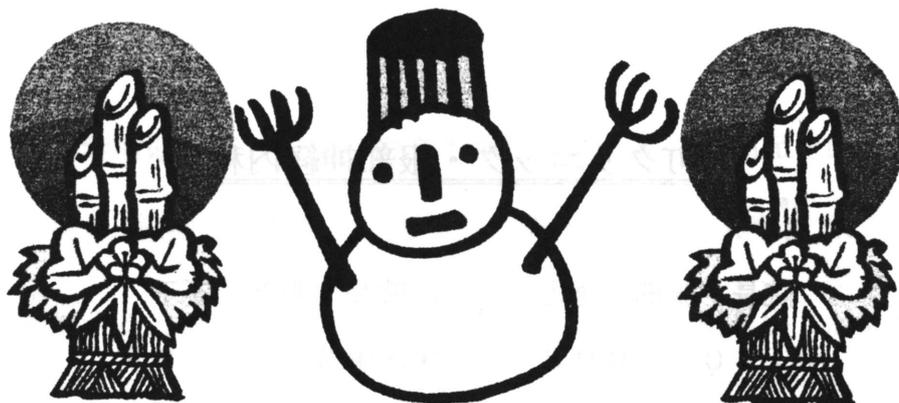
フリーダイヤル:0120-194004
〒453-0851 中村区畑江通8-18-1
TEL052-483-3388
休診日 第2・4土曜、日曜、祝日

SSKA 全国パーキンソン病友の会会報 愛知県版22号

1971年8月7日第3種郵便物認可(毎月6回 1の日・6の日の発行)

2005年12月4日発行 増刊通巻5395号

- 今年も国会請願の署名をお願いするところとなりました。別紙の趣旨にもとづき一人でも多くの方をお願いいたします。
- 2005年の最終版です。どうぞ、良いお年をお迎えください。



発行人	特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会
	東京都世田谷区砧6-26-21
	TEL 03-3416-1698
	FAX 03-3416-3129
編集人	愛知県パーキンソン病友の会 越澤 博
	事務局 名古屋市緑区浦里1-68-508
	TEL・FAX 052-891-3482
加入者	愛知県パーキンソン病友の会
配布価格	500円